

2023年11月期

個人投資家向け会社説明会資料



大阪有機化学工業株式会社

東証 プライム：4187

見えないけれど、
あなたのそばに



01

会社概要

02

2023年11月期 決算概要

03

2024年11月期 業績予想

04

中期経営計画について

05

参考資料

会社概要と経営理念

創立	1941年12月8日
設立	1946年12月21日
本社	大阪市中央区安土町一丁目8番15号
資本金	36億29万円
従業員数	461名(連結)
上場市場	東証プライム(証券コード:4187)

経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

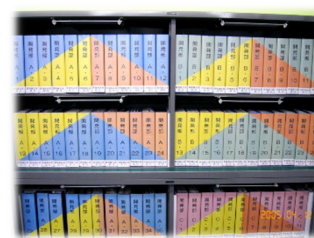
特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

行動指針(抜粋)

- ・わたしたちは、約束を守り、誠実に謙虚に向き合います
- ・わたしたちは、お互いの良さを活かし、補い合い、チームで最大限の力を発揮します
- ・わたしたちは、お客様のイノベーションに繋がるユニークな機能を備えた材料を提供し続けます
- ・わたしたちは、安全を最優先し、無事故・無災害を目指します

OYPM (Osaka Yuki Productive Maintenance) 活動

- ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を基にした全社活動の推進
⇒創造や工夫の積み重ねにより、
工程改善・品質管理技術の向上に繋がっております。
- ・設備を磨き、技術を磨き、人を磨く
⇒30年間にわたる活動を通じ企業風土として醸成。
⇒人的資本経営へとつなげてまいります。



<韓国・ソウル>



● 韓国連絡事務所

<中国・上海>



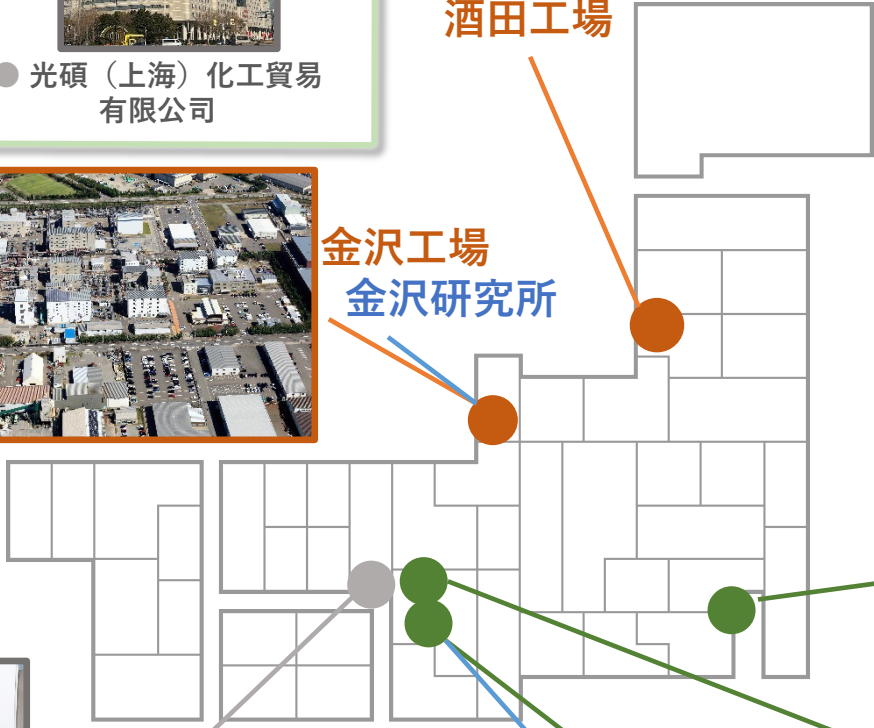
● 光碩（上海）化工貿易有限公司



酒田工場



金沢工場
金沢研究所



- : 事業所
- : 工場
- : グループ
- : 研究所



東京オフィス



神港有機化学工業(株)



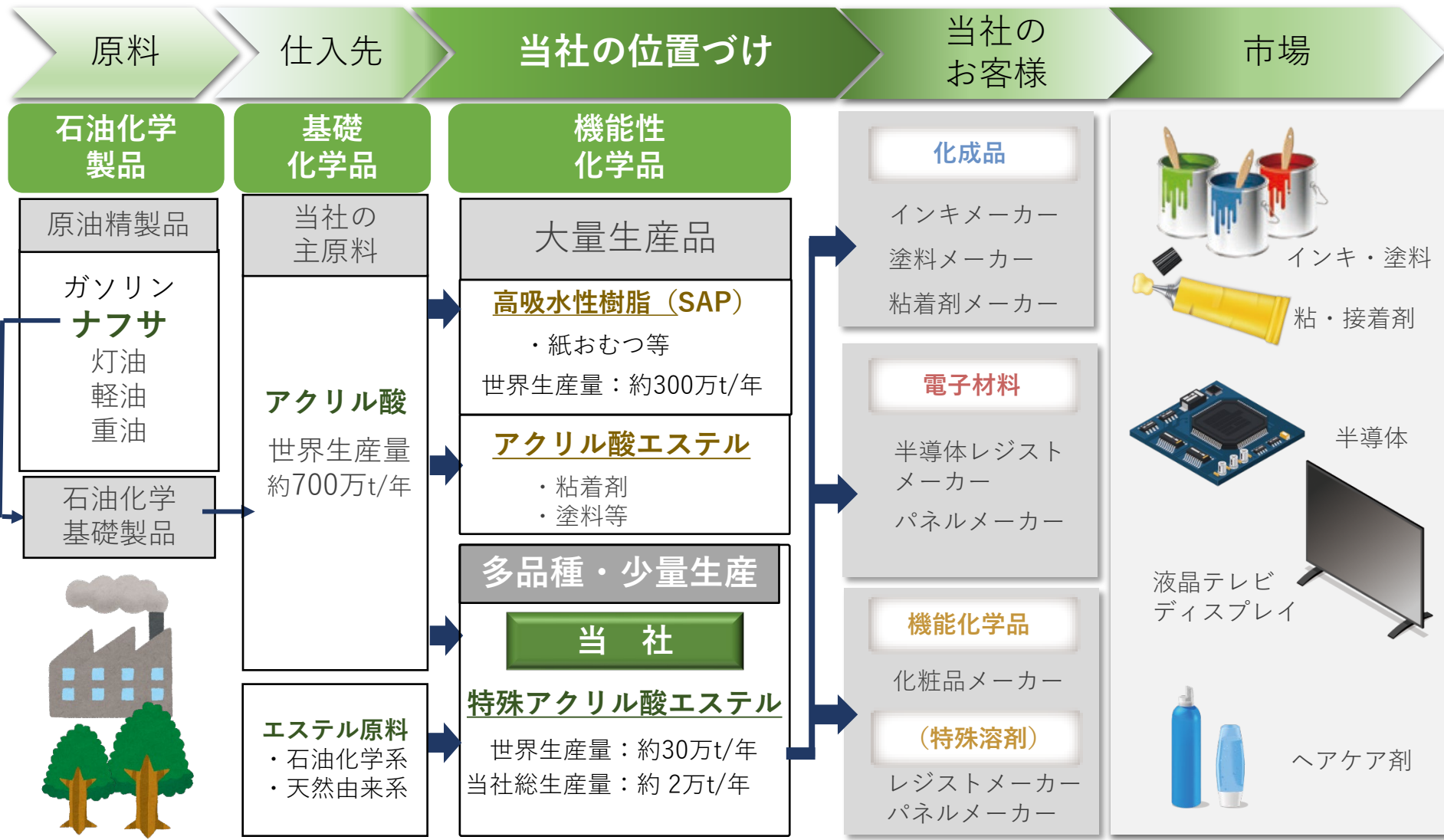
大阪事業所
CREO(研究所)

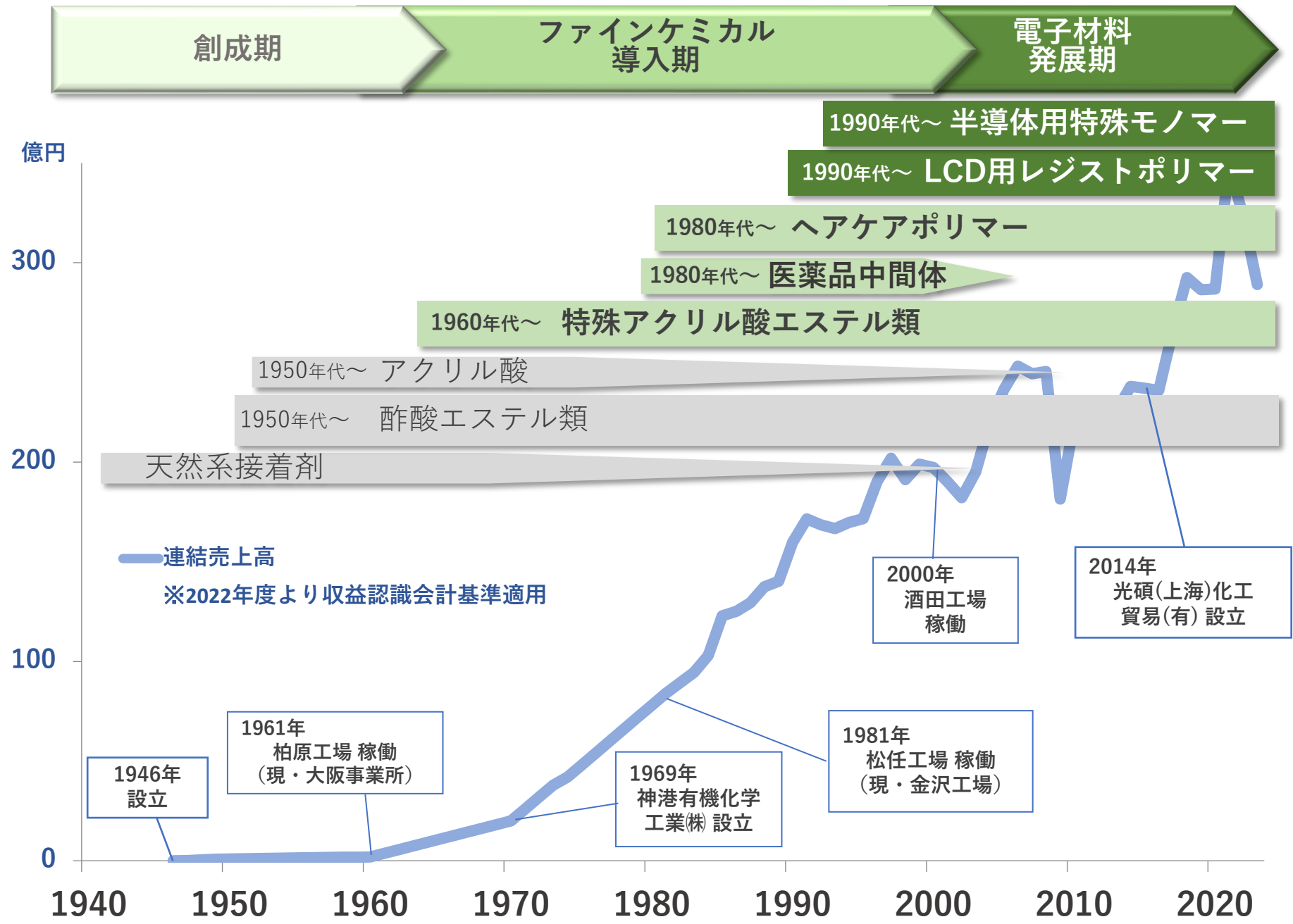


本社

当社事業の位置づけ

* 特殊アクリル酸エステルの**多品種少量生産**を得意とする B to B メーカーです。
 多彩な製品群を有し、世界でトップシェアの品目を何種類も保有しております。



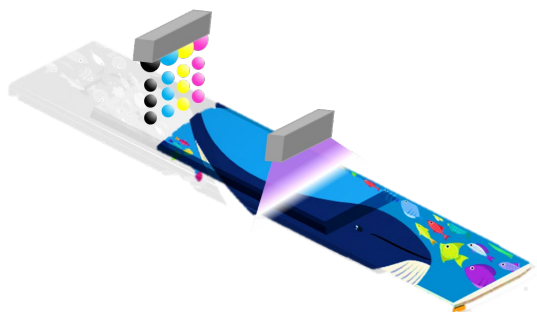


化成品

高度な蒸留技術を活かした高品質な**アクリルモノマー**を豊富にラインナップ

【UVインクジェット用原料】

有害な有機溶剤 (VOC) の蒸発が少なく、環境にやさしい原料を提供。



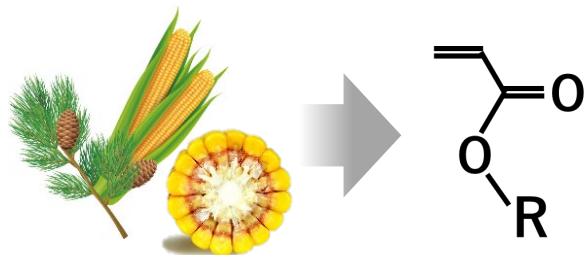
【自動車塗料用原料】

環境にやさしく、汚れをはねのけ、小さなキズを自動修復。



【バイオマスアクリレート】

松やトウモロコシの芯など、**天然由来原料**を用いた製品を開発し、環境にやさしい製品の提供に貢献。



【粘接着剤用原料】

靱性や伸び、屈折率などをコントロールし、様々な機能を付与。



電子材料 表示材料や半導体用材料など、最先端技術に欠かせない材料を提供

【表示材料用原料】

当社独自のアクリル樹脂設計技術を生かし、液晶パネルやタッチセンサーパネルなどの高機能化に役立つ材料を提供しております。



【半導体用原料】

最先端半導体の集積回路を作るのに欠かせないフォトレジスト。当社はArFレジスト用原料のトップシェアを占めております。また、最先端のEUVレジスト用材料も提供しております。



機能化学品事業

化粧品原料を中心に、特殊溶剤など多岐にわたり展開

【化粧品原料】

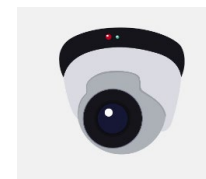
ヘアスプレーやヘアジェルのセット力、シャンプーの洗い心地、ヘアリンスによる髪への肌触りなど、あらゆる機能に当社のアクリル樹脂が貢献しております。

また、においが少なく、肌にやさしい処方可能な化粧品原料も提供しております。



【超親水性コーティング材料】

当社のアクリル樹脂をガラスに塗布すると、曇りにくく、汚れにくくなります。この性質を生かし、眼鏡や浴室鏡の曇り止め、監視カメラの表面保護に使用されております。

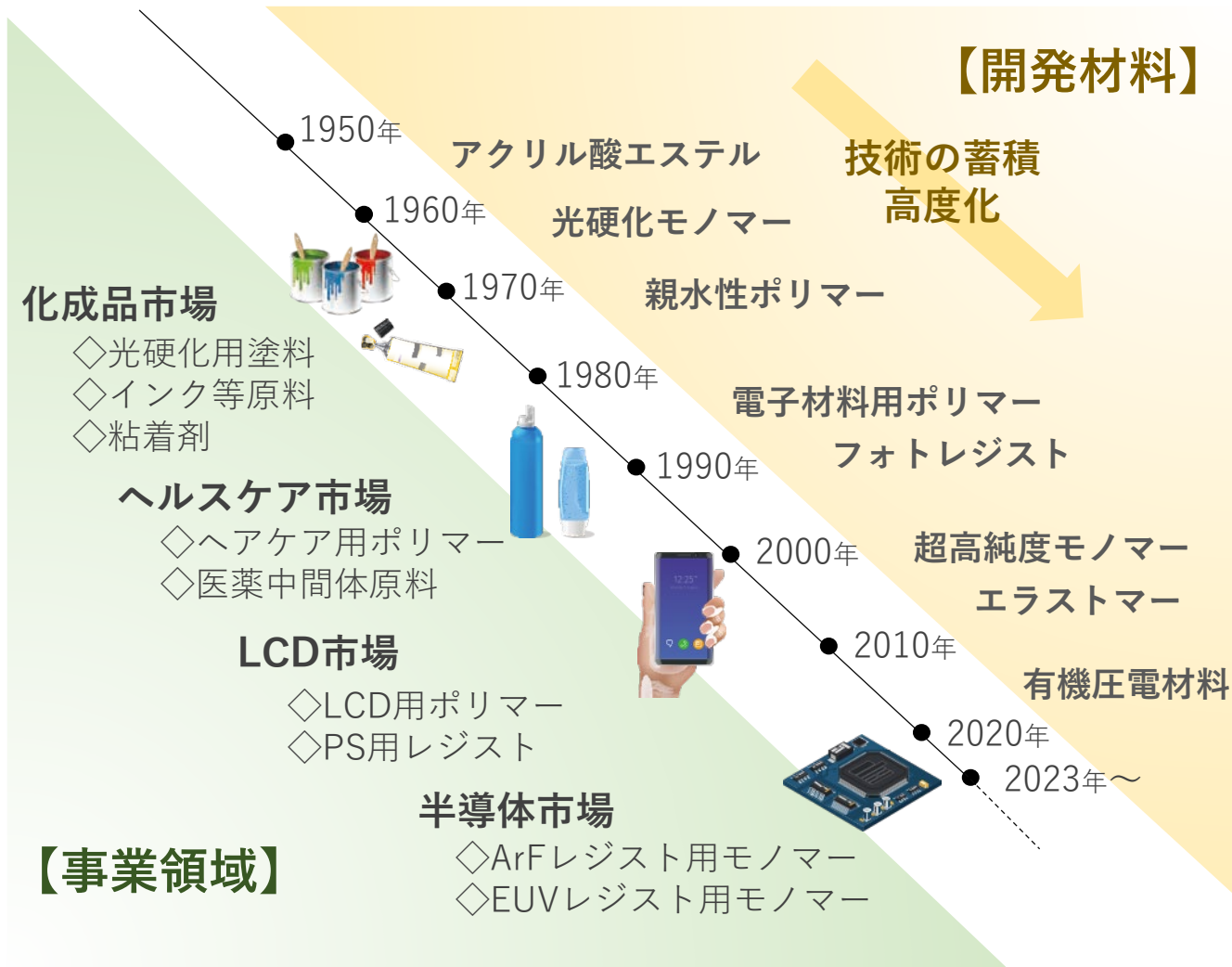


【特殊溶剤】

不純物を極限までカットした超高純度の特殊溶剤が、最先端電子材料の用途としてお役にたっております。



当社はアクリル酸エステルを基盤として技術深耕と製品川下化を進め、ニーズに合わせた新たな材料を様々な市場へ提供し続けております。



【当社の注力製品】

化成品

- ・UVインクジェット原料
- ・バイオマスアクリレート
(目標比率100%)

機能化学品

- ・化粧品材料
- ・CMPスラリー用添加剤

電子材料

- ・EUV用モノマー
- ・ μ LED用レジスト

新規事業

- ・エラストマー
- ・有機圧電材料

有望な市場へ展開

センサ、ハプティクス、ソフトロボティクス分野などの新規市場への参入に向け、エラストマーや有機圧電材などの新たな材料・技術を開発しております。

当社
開発材料

機能性アクリルエラストマー



よく伸び縮みする材料

有機圧電材料



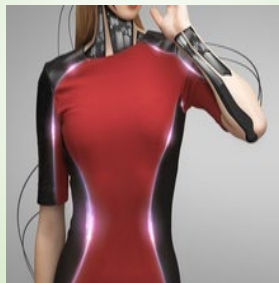
押すと電気が流れる
フィルム



電気で動く
フィルム

ウェアラブルデバイス

衣服に付属したセンサーにより
体調やストレス等を測定する
デバイス



想定
用途/市場

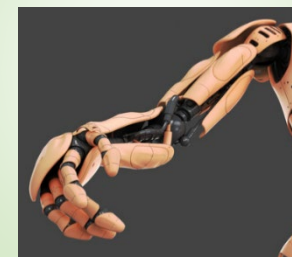
触覚デバイス

肌触りなどの感覚を
画面などから伝える
デバイス



ソフトアクチュエータ

より人体に近い動きが
出来るロボット
医療、介護へ応用



01

会社概要

02

2023年11月期 決算概要

03

2024年11月期 業績予想

04

中期経営計画について

05

参考資料

外部状況

コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復傾向が続きました。一方、中国経済の停滞や物価高、地政学リスクの高まりなどにより、不透明な状況が続いております。

売上高

ディスプレイや半導体などの需要低迷の影響を受け、電子材料事業を中心に売上高が減少いたしました。この結果、売上高は前年同期比10.3%減少の、289億7百万円となりました。

営業利益

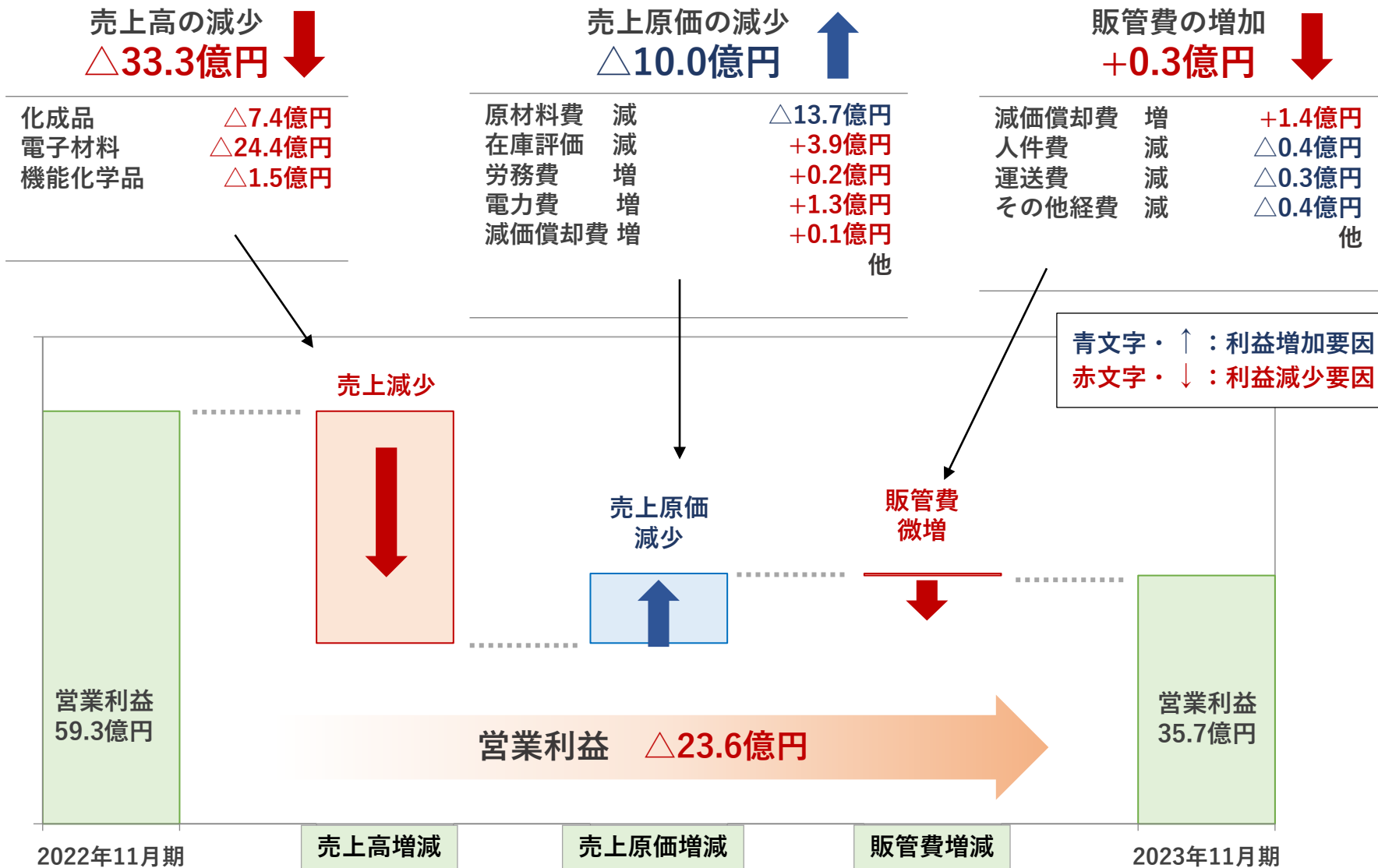
売上高の減少や原燃料価格の高止まりなどの影響により、営業利益は、前年同期比39.7%減少し、35億7千7百万円となりました。

(百万円)

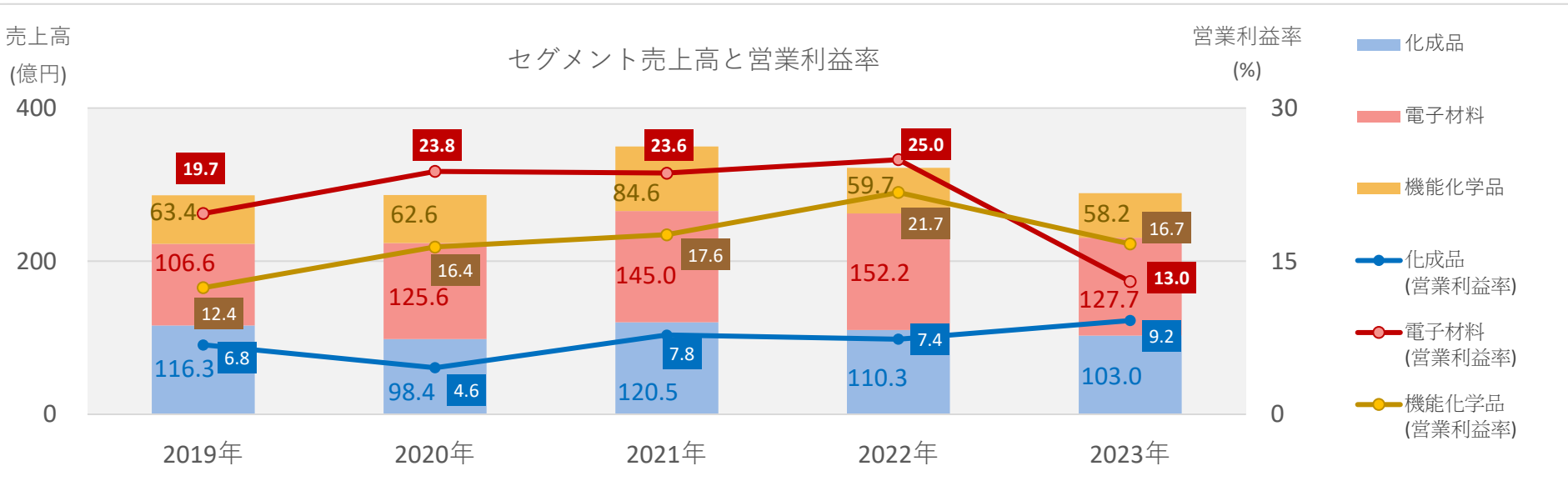
	2022/11 実績	2023/11 予想値	2023/11 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	32,236	29,000	28,907	△3,329	△10.3%
営業利益	5,934	3,800	3,577	△2,357	△39.7%
経常利益	6,365	4,000	3,877	△2,487	△39.1%
純利益*	4,725	2,800	3,270	△1,454	△30.8%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	76,150	72,000	68,150	—	—
為替 (¥/\$)	129	133	140	—	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

化成品・電子材料事業の売上高の減少や、在庫評価減による原価上昇、減価償却費の増加などにより営業利益は前年同期に対し、23.6億円の減少となりました。



	化成品	電子材料	機能化学品
概要	◇自動車用塗料向けの販売は、自動車生産の回復に伴い、堅調に推移いたしました。 ◇ディスプレイ用粘着剤向けや、UVインクジェット用インク向けの販売が減少いたしました。 ◇メタクリル酸エステルグループは販売が大幅に減少いたしました。	◇半導体材料グループは、最先端のEUVレジスト用原料は好調に推移。主力のArFレジスト用原料は、需要減少による在庫調整が続き、販売が低調に推移いたしました。 ◇表示材料グループはディスプレイの需要低迷により低調に推移いたしました。	◇化粧品原料グループは、販売が海外で好調に推移いたしました。 ◇機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移いたしました。 ◇子会社の高純度特殊溶剤の販売は堅調に推移いたしました。
売上高	103.0 億円 (YoY: △6.7%)	127.7 億円 (YoY: △16.1%)	58.2 億円 (YoY: △2.5%)
営業利益	9.4 億円 (YoY: +16.5%)	16.6 億円 (YoY: △56.2%)	9.7 億円 (YoY: △25.1%)



* 2022年度より「収益認識に関する会計基準基準」等を適用

01

会社概要

02

2023年11月期 決算概要

03

2024年11月期 業績予想

04

中期経営計画について

05

参考資料

通期業績予想

2024年11月期において、半導体市場は引き続き低調に推移するものの、徐々に回復傾向に向かうと予想されております。一方、昨年投資した半導体材料製造設備の減価償却負担が増加いたします。これらを背景に、当期の売上高は20億円増収の310億円、営業利益は1億円増の37億円と予想しております。

(百万円)

	2023/11 実績	2024/11 予想	対前年実績	
			増減額	増減率
売上高	28,907	31,000	+2,092	+7.2%
営業利益	3,577	3,700	+122	+3.4%
経常利益	3,877	3,900	+22	+0.6%
純利益*	3,270	2,700	△570	△17.5%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	68,150	70,000	—	—
為替 (¥/\$)	140	145	—	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年11月期 売上高	2024年11月期 予想	比率 2023vs.2024(予想)
103.0 億円	112.0 億円	+8.7%

● 外部環境

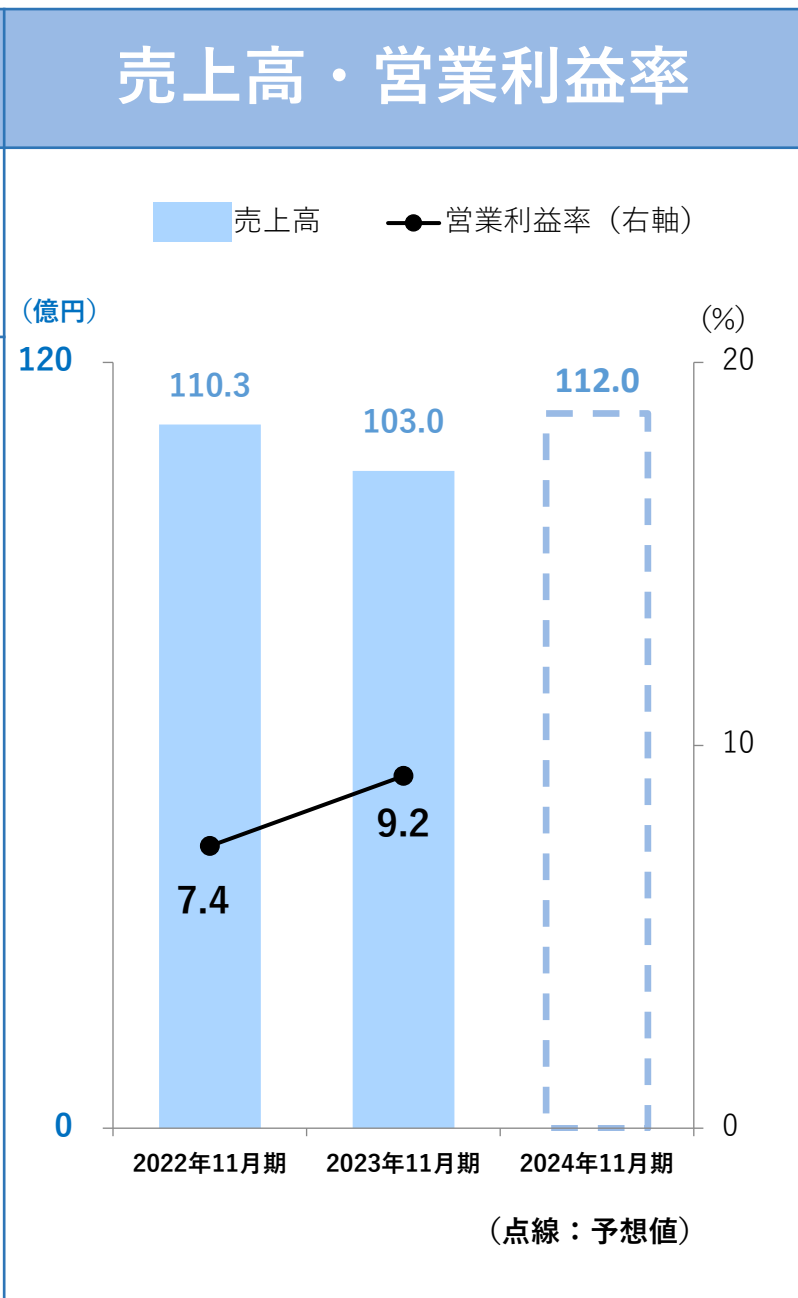
- ・自動車生産は回復基調。
- ・テレビなどのディスプレイ市場は在庫調整が進み、回復傾向であったが、再度調整局面へ移行する気配。

● 当社の状況

- ・自動車用塗料向けは堅調に推移する。
- ・ディスプレイ用粘着剤向けは、再度ディスプレイ市場の調整の影響を注視する。
- ・UVインクジェット用インク向け材料は拡販に注力。

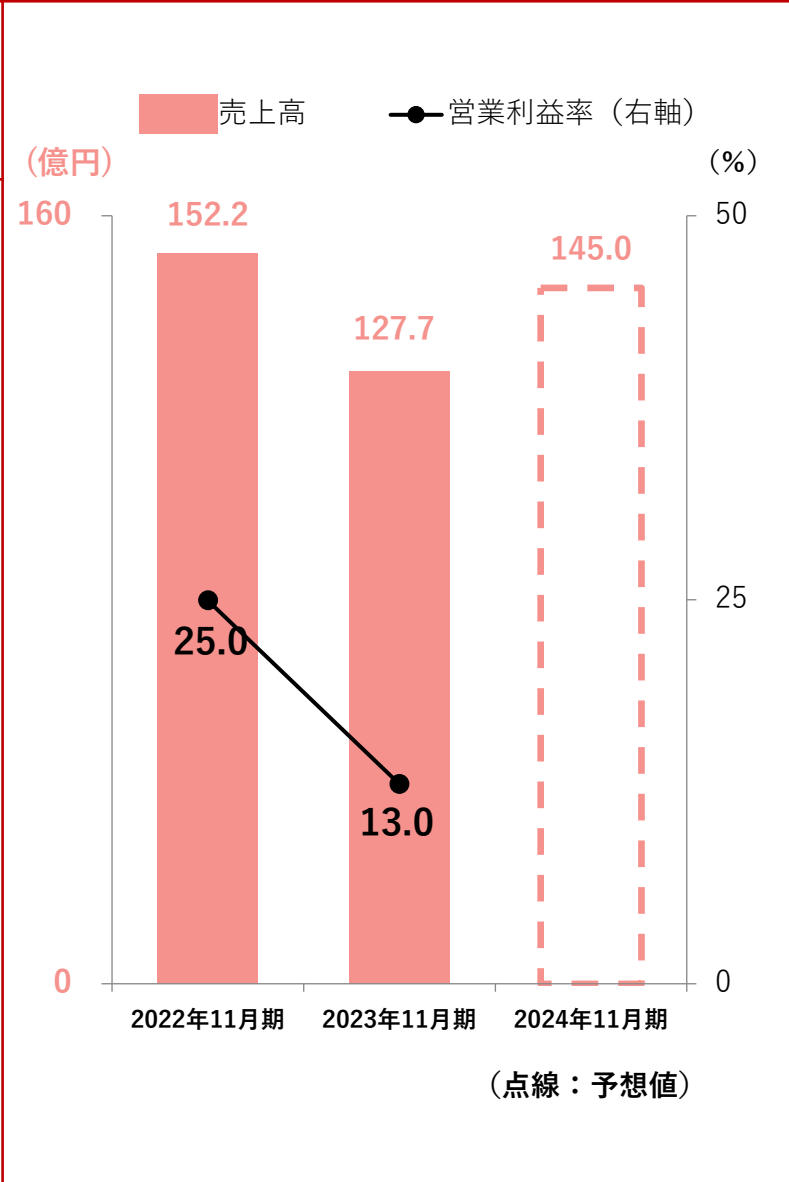
● 市場におけるリスク

- ・原油価格の高止まり。
- ・天然由来原料相場の高騰。
- ・中国経済の悪化
- ・化学物質関連の規制強化



2023年11月期 売上高	2024年11月期 予想	比率 2023vs.2024(予想)
127.7 億円	145.0 億円	+13.5%

売上高・営業利益率



● 外部環境

- ・半導体市場の市況悪化長期化、当初の想定以上に回復が遅れる気配。
- ・最先端のEUV材料は実用化が進展。
- ・ディスプレイ市場は回復基調であったが、再度調整局面へ。

● 当社の状況

- ・半導体材料用の新設備が稼働し顧客認定用の生産を進めていく。
- ・主力のArFレジスト用原料の販売は下期回復と予想。
- ・EUVレジスト用原料の採用が進む。
- ・表示材料は、市場の影響を受け軟調な状況が続く見込み。

● 市場におけるリスク

- ・米中対立の激化。
- ・半導体市場回復の遅れ。

2023年11月
期
売上高2024年11月期
予想比率
2023vs.2024(予想)

売上高・営業利益率

58.2 億円

53.0 億円

△9.1%

●外部環境

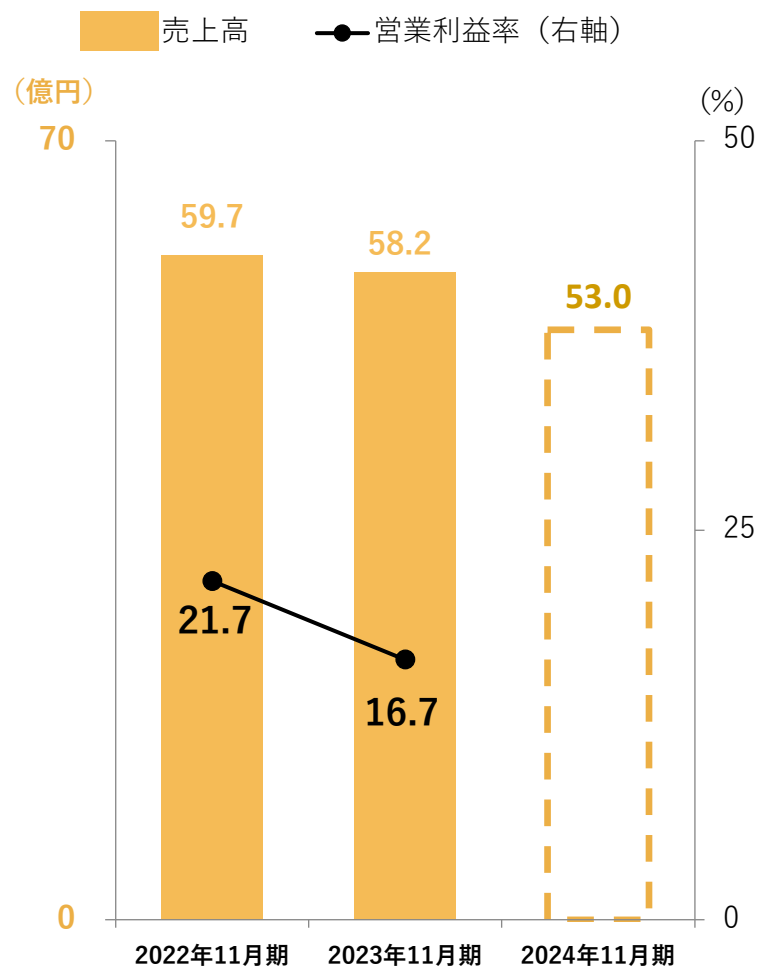
- ・化粧品市場は、海外・国内にてアフターコロナによる外出機会増などで本格的な回復に期待。
- ・環境対応などにより一部で原料切替のニーズが進む。
- ・電子材料用など溶剤の高純度に対するニーズが拡大。

●当社の状況

- ・化粧品原料は、引き続き積極的な海外拡販を進める。
- ・一部受託品が低調に推移。
- ・グループ会社の特殊溶剤の販売は、電子材料用途に向け更なる拡大を期待。

●市場におけるリスク

- ・中国による日本製品不買運動の深刻化。
- ・半導体市場回復の遅れ。



(点線：予想値)

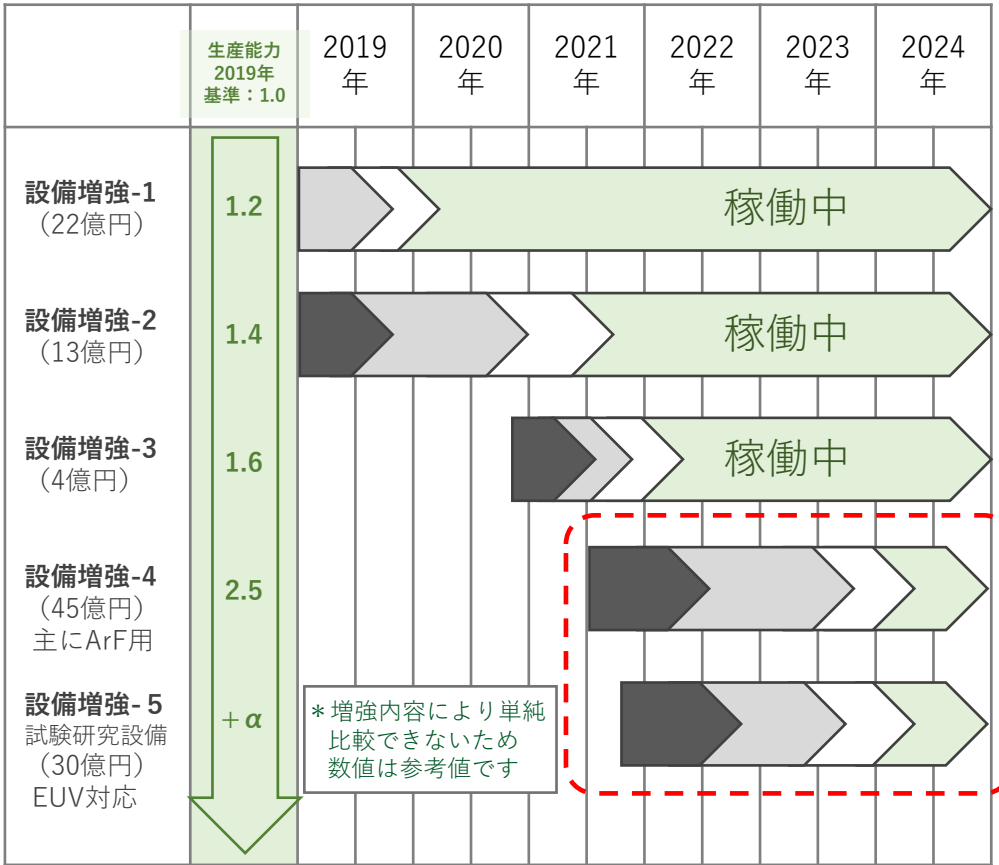
設備投資・減価償却・研究開発費の推移

中期経営計画に沿って、計画的に設備投資を進めてまいりました。
 2023年には半導体材料製造設備をはじめ、
 当社としては過去最大となる**86.6億円**の設備投資を行いました。
 その結果、生産能力は大幅に拡大しましたが、2024年は減価償却費が
 増加する見込みです。



◇半導体市場は、2023年に大きく停滞しましたが、2024年より再び成長に転じると予測されております。
 ◇当社においても昨年、2つの大型設備が完成し、需要拡大に込えられるように体制を整えております。

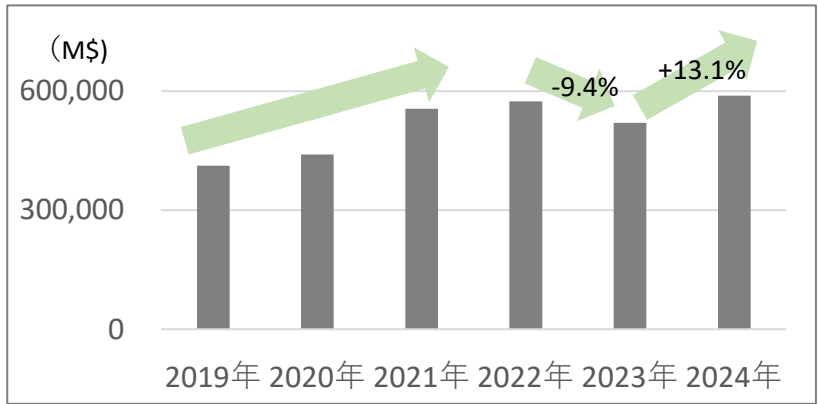
◆半導体材料製造設備の増設推移



・カッコ内は設備投資額



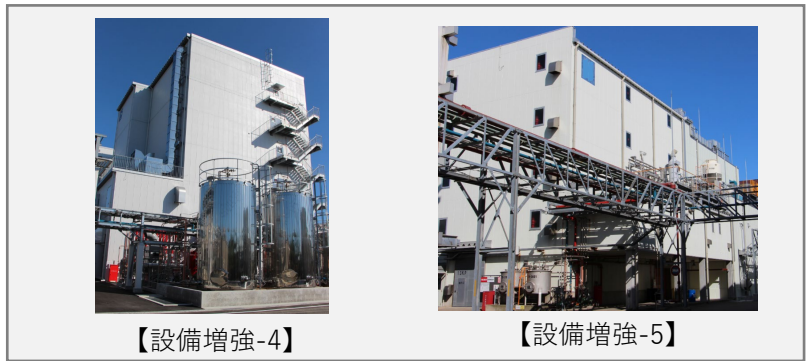
◆世界の半導体市場



【データ元：WSTS】

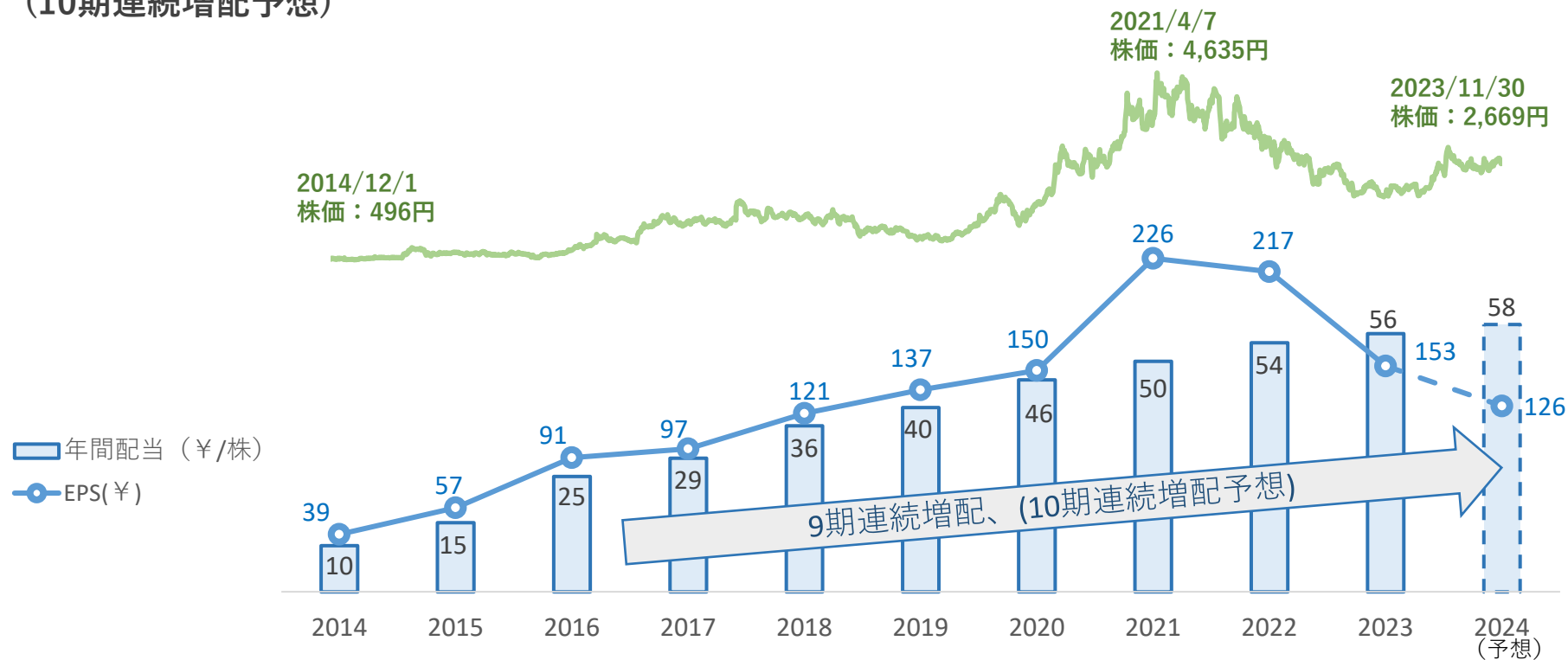
◆新設備の状況

昨年2つの新設備が完成。
 顧客認定取得のための試生産を実施中。
 2024年以降の市場回復に備えております。



株主還元と株価の推移

中長期経営計画の施策を実行し、順調に業績を伸ばし、それに伴い着実に増配を重ねてきました。
2024年11月期の一株当たりの配当は、中間29円、期末29円の計58円と予想しております。
(10期連続増配予想)



会計年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
EPS(¥)	39	57	91	97	121	137	150	226	217	153	126
年間配当 (¥/株)	10	15	25	29	36	40	46	50	54	56	58
配当性向 (%)	25.7	26.4	27.5	30.0	29.8	29.2	30.8	22.2	24.9	36.6	45.7
総還元性向 (%)	25.7	37.9	36.4	30.0	46.5	29.2	30.8	22.2	60.7	54.7	—

* EPS：1株当たり当期純利益

青文字：自己株式取得

01

会社概要

02

2023年11月期 決算概要

03

2024年11月期 業績予想

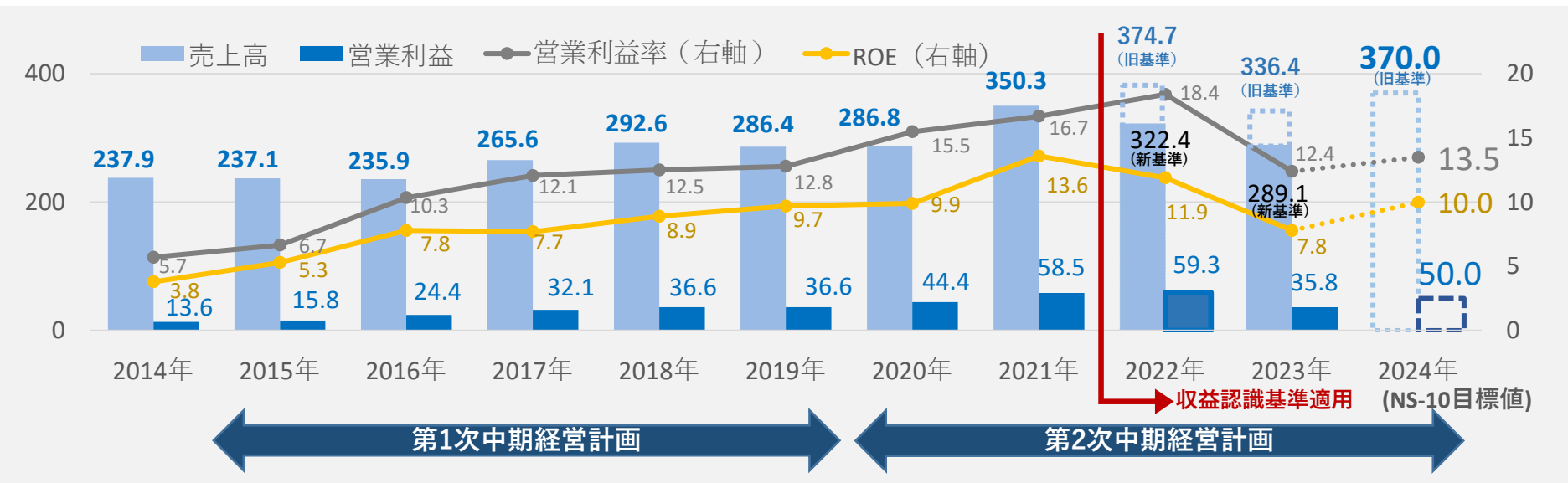
04

中期経営計画について

05

参考資料

「Next Stage 10」（NS-10：2015年～2024年）の目標値が2022年度に達成された事に加え、会計基準の変更(収益認識基準の適用)があった事から、中期経営計画の見直しが必要と考え、NS-10を1年前倒しで終了することにいたしました。



【財務実績】

- ・売上高 / 利益の大幅拡大を達成
- ・半導体事業が主力事業へ成長
- ・大型設備投資を実現(累積160億円)

【非財務実績】

- ・CO₂排出量の削減
- ・教育プログラムの強化
- ・人事制度の見直し

【課題】

- ・事業重点領域の拡充
- ・海外市場への展開
- ・DXの推進
- ・技術の戦略的な深堀
- ・環境へ向けた取組み
- ・人的資本経営

新中期経営計画を策定

新中期経営計画

Progress & Development 2030

(P & D 2030)

Stage 1 (2024年～2026年)	Stage 2 (2027年～2030年)
<ul style="list-style-type: none"> ・ NS-10の実績から成果を得る。 ・ Stage2 へ向けた事業育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Stage1の実現により成果を得る。 ・ 次期中計に向けた「新規」事業育成を行う。

	2023年11月期 実績	2026年11月期 Stage 1 目標	2030年11月期 Stage 2 目標
売上高	289 億円	400 億円以上	500 億円以上
営業利益	35 億円	56 億円以上	75 億円以上
営業利益率	12.4 %	14 %以上	15 %以上
戦略投資・事業投資	—	累積 300 億円以上	
ROE	7.8 %	10 %以上	12 %以上
ROIC	5.4 %	8 %以上	9 %以上
配当性向	36.6 %	40 %目安	

ありたい姿と中期経営計画の位置づけ

経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

中期経営計画

Progress & Development 2030

基本戦略

事業領域

- ・ 重点領域の拡充
- ・ 環境社会へ向けた材料
- ・ 海外戦略の強化

ESG

- ・ 環境社会への貢献
- ・ IT、DXの推進
- ・ 人的資本経営に向けて
- ・ リスクマネジメントの強化

行動指針

キャピタルアロケーション

- ・効率的な投資、海外戦略の強化による事業成長やコスト削減による利益最大化により営業CFの拡大に努める。
- ・株主還元に関しては、配当性向40%目安とし、株主利益の向上につなげる。
- ・成長投資は、生産能力や品質、技術開発といった事業投資に加え、環境、DX、教育への投資を実施し、会社としてのレジリエンスを高めていく。

キャッシュイン

累積営業CF 約 600 億円

(経費計上投資等の調整後、税金支払い前)

- ・効率的な投資による事業成長
- ・海外戦略の強化による事業拡大
- ・効率化/自動化による生産性向上

- ・有価証券売買など
- ・株主還元以外の財務CF

キャッシュアウト

株主還元

- ・配当性向 40%目安
- ・機動的な自己株取得

累積投資 約 300 億円以上

- ・維持投資 120 億円程度
- ・成長投資 180 億円以上
 - ・半導体用材料などの生産能力向上
 - ・新規事業の試作プラント建設
 - ・研究開発や品質向上への投資
 - ・廃物の再利用、再エネ等の環境投資
 - ・IT、DXへの投資

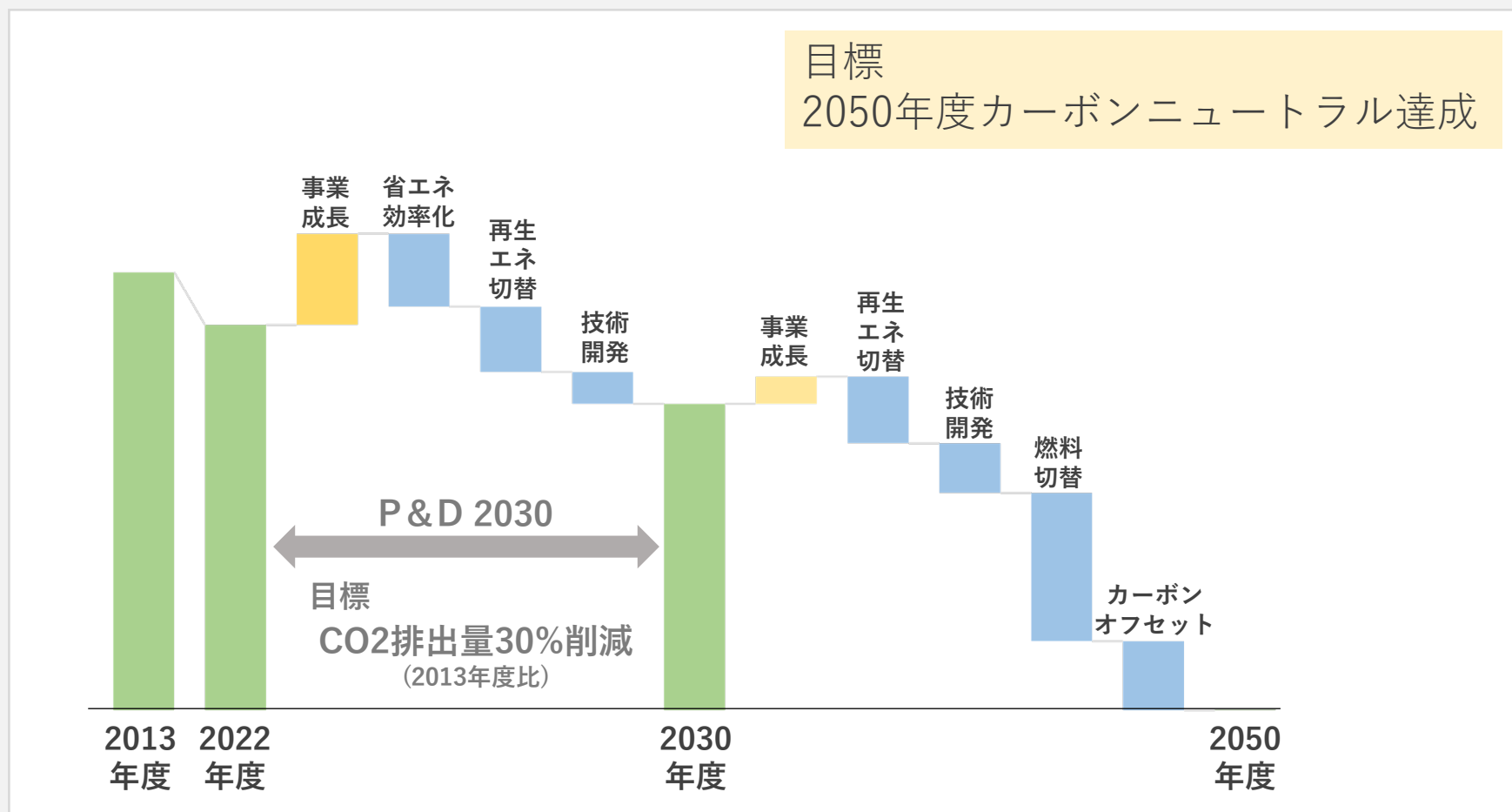
その他

- ・運転資本の増加、法人税、手元資金充当など

※中期経営計画期間(7年間)の累積額

カーボンニュートラルへの施策

- ・ 2030年までは再生エネルギーの活用を進めながら、技術開発によるCO2削減策を模索し、目標達成を目指す。
- ・ 2030年以降では、技術開発での貢献を増加させつつ、燃料切り替えやオフセットにより、カーボンニュートラルを目指す。



IT方針とDXへの施策

- ・短期的には、ITによる省力化・効率化・高精度化を進め、生産性の向上や開発の高度化を図り、顧客ニーズの取得から製品上市までのリードタイム最短化や在庫最少化により既存のビジネスモデルを強化する。
- ・長期的には、全体最適化を基にDXへの足掛かりとなる仕組みを構築し、新たなビジネスモデルへ挑戦していく。

データ化

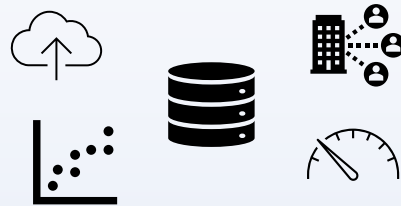
データのデジタル化



- ◇研究
実験データ、技術知見
- ◇製造
製造プロセス、実績値データ
- ◇営業
顧客、ニーズ、市場情報
- ◇SCM
在庫状況、生産スケジュール
受発注状況
法・品質関連データ
原価情報
- ◇管理
人事情報
経理情報
経営情報

データ共有化

共有化、見える化



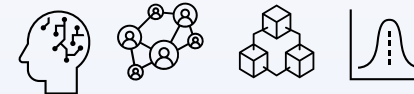
- ・最適なプラットフォーム
- ・BIツールの利用
- ・部署横断的な共有
- ・リアルタイムな情報見える化

自動化

- ・データ蓄積の自動化
- ・定型業務の自動化

データ利活用

AI・MIを用いた
データ解析の高度化



- ◇研究
新たな知見の創出
研究開発速度の向上
- ◇製造
生産プロセスの最適化
- ◇営業
戦略的な営業活動
新規市場・顧客の開拓
在庫の最適化
- ◇SCM
生産計画の最適化
物流プロセスの最適化
- ◇管理
経営判断の最適化
クリティカルな人事施策
- ◇全体
トラブル・ミスの防止

事業の
変革

01

会社概要

02

2023年11月期 決算概要

03

2024年11月期 業績予想

04

中期経営計画について

05

参考資料

営業外損益

営業外収益では、受取配当金や為替差益が減少しました。
営業外費用では自己株式取得費用が減少しました。

特別損益

特別利益では固定資産売却益が減少し、投資有価証券売却益が増加しました。
特別損失では、固定資産除却損が減少しました。

	2022/11	2023/11	増減額		
			(百万円)		
営業外収益	452	313	△139	→	受取配当金 △32百万円 為替差益 △76百万円 受取保険金 +72百万円 その他 △68百万円 他
営業外費用	21	13	△8	→	自己株式取得費用 △10百万円 他
特別利益	462	587	+125	→	固定資産売却益 △426百万円 投資有価証券売却益 +550百万円 他
特別損失	18	9	△9	→	固定資産除却損 △10百万円 他

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

貸借対照表

	(百万円)			
	2022/11	2023/11	増減額	
資産				
流動資産	28,082	27,101	△980	売掛金 △852百万円 他
有形固定資産	18,470	20,443	+1,972	建物及び構築物（純額） +1,551百万円 機械装置及び運搬具（純額） +4,800百万円 建設仮勘定 △4,265百万円 他
無形固定資産	116	102	△13	
投資その他の資産	6,166	6,988	+821	投資有価証券 +881百万円 他
負債				
流動負債	9,169	7,098	△2,071	支払手形及び買掛金 △719百万円 未払法人税等 △801百万円 他
固定負債	2,272	3,909	+1,637	長期借入金 +1,433百万円 他
純資産	41,394	43,629	+2,234	
総資産	52,836	54,636	+1,800	利益剰余金 +2,093百万円 他

今後の財務指標

	2023/11時点	今後の目安
自己資本比率	78.7%	—
手元流動性比率	2.8ヵ月	3.0～4.0ヵ月
DEレシオ	0.12	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.07	0以下（実質無借金）
インタレスト・カバレッジ・レシオ	575	200～400倍

(百万円)

	2022/11	2023/11
営業活動によるCF	4,727	4,370
投資活動によるCF	△4,852	△4,127
財務活動によるCF	△1,564	△476
現金及び現金同等物に係る 換算差額	160	58
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,529	△173
現金及び現金同等物の 期末残高	8,064	7,890

[主な内訳]

税金等調整前当期純利益	4,455百万円
減価償却費	2,428百万円
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	1,224百万円
法人税等の支払額(△は支払)	△1,920百万円
他	
有形固定資産の取得による支出 △4,708百万円 (半導体材料製造設備等) 他	
長期借入による収入	3,300百万円
長期借入金の返済による支出	△1,934百万円
自己株式の取得による支出	△602百万円
配当金の支払額	△1,177百万円
他	

< 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

